

歯ブラシ、焼却時にCO2少ないプラに ラピスが全面転換

2023/2/15 20:24 | 日本経済新聞 電子版

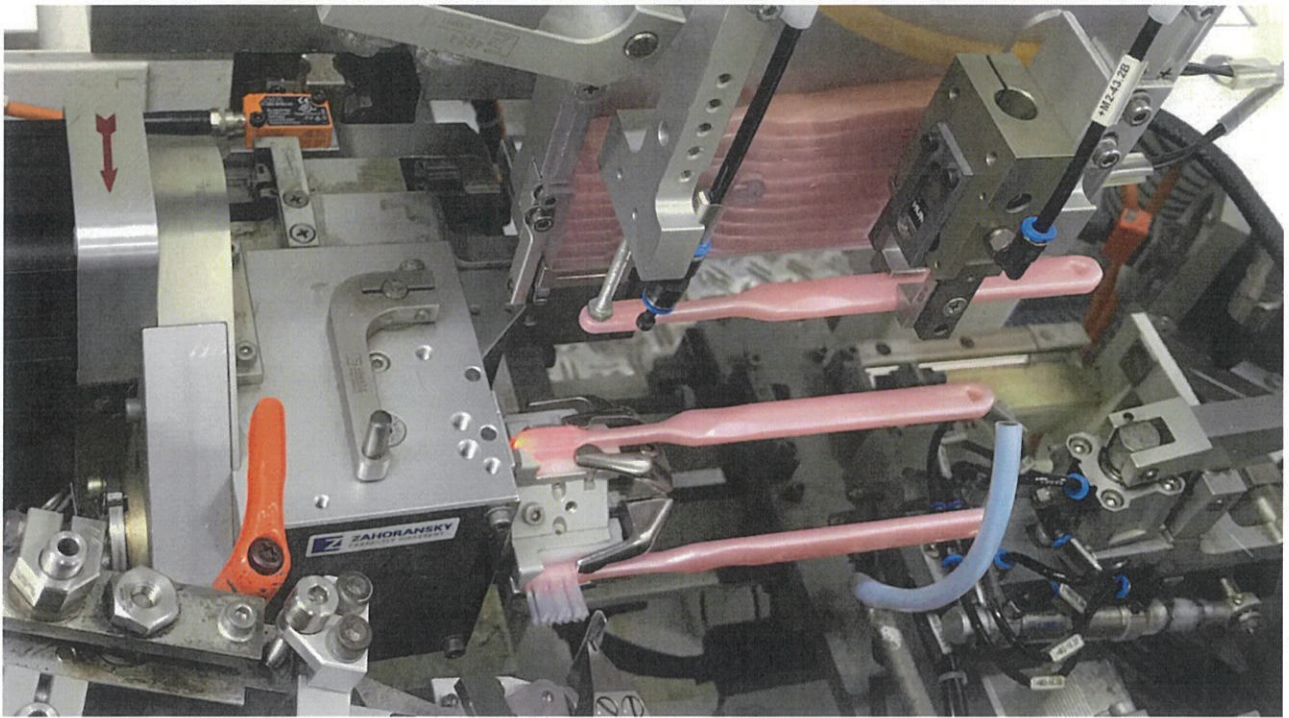


ラピスが歯科医ルートで生産・販売している歯ブラシ。包装も従来のビニール袋から再生紙に替えた

歯科医やノベルティー用の歯ブラシを手がけるラピス（大阪府八尾市）は同社のほぼすべての製品について、焼却処分の際に排出される二酸化炭素（CO2）が少ないプラスチックに切り替えた。微量の炭化促進剤を混入させて灰などに変わりやすくする。CO2の削減効果は従来比で約35%とみている。

生産する年500万本の9割程度を切り替えた。歯ブラシの環境負荷を減らすにはプラスチックと植物由来の素材を混ぜ合わせる手法が一般的だったが、強度が落ちる難点があった。今回は「グリーンナノ」という技術を使うことで、強度はプラ100%と変わらず、色も透明を含めて従来と同じにできる。

グリーンナノは東京理科大発のスタートアップが開発した技術で、現在は作業服メーカーのアイトス（大阪市）が特許を持つ。プラスチックの構成元素である炭素が酸素と結びついてCO2になるのを防ぎ、灰などの固形物に閉じ込める。プラスチックの使用量はほとんど同じだが、ゴミとして燃やした際の環境負荷が小さい。



年500万本生産している歯ブラシのほとんどをエコ素材に切り替えた（大阪府八尾市）

これに合わせて、ラピスは歯ブラシの卸価格を約1割引き上げた。グリーンナノの加工コストをまかなうとともに、昨年来のプラスチックの価格上昇を吸収するため。環境対応の付加価値をつけることで、主要な販路である歯科医やアマゾン、[アスクル](#)などではおおむね受け入れられているという。

ラピスはコメ由来の素材を混入させてプラの使用量を従来より2割減らした歯ブラシ「エコデント」も、昨年7月から生産している。小売市場向けで、初年度（2023年5月期）の出荷量は30万本の見通し。